

白川町総合計画審議会 会議録（第6回）

1. 開催日時 令和2年12月2日（水） 午後2時00分 開会
2. 開催場所 白川町町民会館 大研修室
3. 出席委員
会 長 竹内 治彦君 副 会 長 細江 茂樹君
委 員 藤井 宏之君 委 員 佐伯 好典君
委 員 服部 圭子君 委 員 加藤 邦之君
委 員 田口 和義君 委 員 山中 剛彦君
委 員 今井 和秀君 委 員 小栗 敏弘君
委 員 安江 万美子君 委 員 浅井 長可君
委 員 福田 喜美子君 委 員 細江 照男君
委 員 内藤 敬子君 委 員 塩月 祥子君
4. 欠席委員 委 員 古田 文英君 委 員 鈴村 雄二君
委 員 額 額 眞彦君 委 員 後藤 茂巳君
5. 説明のために出席した者の職氏名
町 長 横家 敏昭君 副 町 長 佐伯 正貴君
教 育 長 鈴村 雅史君 総務課長 安江 章君
企画課長 長尾 弘巳君 町民課長 藤井 勝則君
保健福祉課長 杉山 哉史君 農林課長 三宅 正仁君
建設環境課長 藤井 充宏君 教育課長 藤井 寿弘君
議会事務局長 大岩 裕樹君 会計管理者 加藤 博史君
林業専門監 梶浦 善孝君
6. 職務のために出席した者の職氏名
企画係長 鈴村 幸祐 企画係主査 山下 直紀
企画係主査 山口 裕代
7. 会議の経過
企 画 課 長 開会する旨を宣告し、あいさつした。（午後2時00分）
会 長 あいさつした。
町 長 あいさつした。
【協議事項】
(1) 総合計画基本構想・基本計画案について
会 長 (1) 総合計画基本構想・基本計画案について事務局に説明を求めた。
山下 主査 資料により説明した。
会 長 質疑を許した。
服部 委員 私自身は有機農業を35年やっております。

環境とか、子育てといった面は、経験もありますし専門的な目でも6次総に期待をしているところです。

前もっていただいた冊子で、産業経済の循環に地域資源を生かすという部分で加えた方がいいと思うことをまとめましたので、意見させていただきます。

まず、コロナウイルスが蔓延したことによって、様々な面で新しい状況が出てきています。特に食糧自給率の低い日本においては国際連携ができなくなっているという状況の中で、町内の食料自給を進めていかなければならないと思います。もう一つは外国人労働者の方によって成り立っていた産地が少なくなっているということもあるので、外国の農産物に頼っている状況は変えていかななくてはいけないと思います。

町内自給を目指すということをこの8年間、やっていかななくてはいけないと思い、成果指数のところ自給率というのを加えていただきたいと思います。

米についても作っている方が自給できなくて、外から買っているという状況もありまして、野菜等は野菜村チャオに出てくる農産物だけでは食べていけないという状況ですし、農家の高齢化等もありますので、より一層進める必要があるのではないかと思います、町内の自給率という視点がここに加わるといいと思います。

もう1点ですがSDGsの目標に沿って進めるのは当然のことだろうと思ひまして、ここにも目標がいくつか掲げられているわけですがけれども、農薬等が世界でも1位にあたる使用の多さというのが日本の現状です。そのことによって使っている人たちの健康被害、例えば癌だとかそういった神経系の病気が起こることも明らかになっていますし、消費者が安全性の高いオーガニックな食べ物を求めているということもあるので、環境に配慮した農業を進めていくというような方針をこの中に盛り込んでいくべきではないかと思ひますの。

次に、白川町の有機農業は40年前に産声をあげています。

無農薬のお茶の生産者がいたり、産直で名古屋方面への流通を切り拓いた方があったり、ゆうきハートネットというような団体もあります。有機農業が世の中に注目されたときからこの白川町は取り組みが始まっているということも特徴として、誇りをもっていいと思ひています。

野菜村チャオの有機率、有機農家の比率も有機農業先進地とっていいと思ひます。また、安全な食べ物を食べたい、子育てしたいとって移住している人たちがいるという状況ですし、今後の関係人口等のためにもそ

ういった環境を次世代に続けるための持続可能な農業っていうものを農林業の振興の中に位置づけていく必要があると思います。1番は町内自給率のこと、2番は環境に配慮した技術の推進、そして3番は有機農家への持続可能な支援、そういったものをこの中に加えて行くべきではと思います提言させていただきます。

農 林 課 長 総合計画ということで大きな枠の中の一つとして、安心安全の点ですが、今までも岐阜クリーン農業といった形で減農薬の取り組みをしていますので、それを継続していく形にはなると思います。自給率は大変難しい話で町内だけで全てを自給するのは現実では難しいと思います。地域ですとか、県とかもっと大きく言えば国で取り組むべきことで、一つの町で、自給率の話をするのは難しいと思います。

服 部 委 員 計画書本編の農林業の振興（農業の振興）を見て、ICTとか、農地の集約化等は、この10年で進んではきましたが、ほぼほぼ5次総でやってきたことをまた進めていくというだけに見えてしまいました。有機農業とか、直販市場の役割ですとかそういった点もあまり書かれていません。

また、これを見て、私たちが一体何をすればいいのかというのが伝わりにくいというような感覚を受けました。

自給率は難しいと言いますが、自給率はどのぐらいなのかをきちっと数字で出していく必要はあると思います。コロナが起これ、この町で過ごしていて、食べるものがない状態になってもいいのかということだと思います。外国の農産物には頼れない、もう輸出するなという国もいっぱい出てきています。実際、自給率が低いのでこの白川町の中でそういうことを進めるのは普通のことだと思っています。何も100%にするということはないですが、現在どのぐらいなのかを把握しているのか、面積当たりで考えてみたときお米は確かにできたと思いますが、野菜村チャオの販売率などを比べてみると、全く自給されていないと思っています。

クリーン農業は10年間でどのように進んできたのかということも含めて8年後どうなっているのか、希望を持ち前に進んでチャレンジしてみんなで苦勞してでも進んでいこう、持続可能なまちにしよう、というところをどのように考えているのかお聞きしたいと思います。

会 長 基本的に審議会で積み上げてきている話ですので今のお話が論点として積み上げの線に沿っているのかということと、自給率に関してはかなり無理がある話だと思います。数か月前の新聞に農業自給率が落ちるのではという記事が出て農業関係者の中で話題になりましたが、そのときは要す

るにグローバルなサプライチェーンが切れて、大きな混乱がもたらされるだろうという内容でした。でも実際にそういうことは起きませんでした。現在、農産物価格がグローバルな環境の中で特段値上がりしているということもないので、パンデミックの後、自給率が大きな課題であるというような背景的事実は存じ上げないというところではあります。それからこの白川町という単位で自給率を論じることに納得できないというか、せめて岐阜県とかの単位で考え、白川町でできるものを食べていく暮らしということを望んだときに一体どういう食生活になるのかということを考えてみるとあまり狭い単位で自給率を考えても意味がないので、おそらく日本とか、そういう単位で考えていかないといけないと思います。

ですから日本での自給率とかそういうことを議論するというというのはあると思いますが白川町という単位はあまりにも狭すぎて総合計画に自給率を上げるっていうのは、一般的な考え方ではないと感じるところです。

自給率という言葉は論点にあまりならないと思いますが、後段の方のブランディングがあるので農作物のブランディングという点では有機農業であるとか環境、安全、安心というようなところを表現してはという議論はあり得ると思います。

計画書の本編は単に文章が書かれているわけではなくって、背景として町の様々な施策があると思います。町の様々な施策の中でそういった形のブランディングを進めるような施策の準備があるのかどうかというところを背景にして考えていかないといけないですし、あるいはそういう形で白川町の農作物に対して安全、安心ということでブランディングしていったらどうかというような意見であれば、町として検討するという話になると思います。今までの積み上げの中にはない論点ですし、町単位の自給率は難しいだろうと思います。安心安全という部分については、まだご意見があればもう1回ぐらいちょっとお話いただいてもいいのかなとは思いますが。

服部委員 安心安全はこれからではなく、現状すでに何か積み上げがあるという点がこの中に表現されていないので、そういった部分が活力ある、活かす、というキーワードのところで大事な点だと思います。

この冊子を作るにあたってはコロナ禍にあって、地域での懇談会がなく、いろいろな団体への聞き取りというものをどれだけされているのか、現状把握がどうしてもしにくかったと思いますが、この点で各団体に向けたヒアリングはきちっと取って、それをもとに作っていただきたいと思っています。

会長 安全、安心な農業という部分で先ほど事務局からも答弁にもありました
が実際は有機農業的なもの実績があつて、データに基づかないところで
感じる事として、移住されて来られる方のご希望の中にそういう部分
があり、一般的にも知られているところではあります。そういう部分
が一つのブランディングの集約市場、経済的な意味での農業だけではなくて
そういう安全、安心をキャッチフレーズにした農業振興というようなもの
も可能性はあるでしょうし、おそらくそれに対して一定程度の事業が行
われているからある程度そういう集約があるだろうと想像するわけです。

ですから、そういうものの記述があつてもいいというご意見として受け
取ることができると思います。それを成果指標の中に入れるかはまた別
問題として、全体のパフォーマンスを測るときに成果指標としてそれが
1項目入ってくるのか、それとも違うものになるのかが議論のわか
れるところだと思います。

ですから、今のご意見を集約しますと、安心安全という部分それ具体的
には有機農業とか環境に配慮した農業というものを、白川町のブラン
ディングの一つとしてここにしっかりと書き込んでほしいというのがご
意見の趣旨であり、できればそれは成果指標に入れてほしいというご
意見だったわけですが、書き込む要素としては、ありそうな気もする
しそれは事務局でご検討いただくとして成果指標の中に入るかどう
かは、農業という広い分野の中の成果指標として選び抜かれた二つ
ぐらいになるわけですからそこはまたご検討の余地があるのかなとい
うふうに思います。

農林課長 会長さんが言われたように安全安心というのは大事ですので、
表記を検討させていただければと思いますし、農業のところでの議論
でしたが、自然と資源のブランド化というところで、安全性の向上とい
ったものも出てきます。また、自然環境の保全ということで、農業一
つをとっても、いろいろなところに分かれている部分もあるので、整
合性をとりながらもう一度整理をさせていただければと思います。

藤井委員 人口減少は悩むところで、解消までいきませんが、移住定住
が一番のキポイントではないかと思っています。移住・交流サポートセン
ターができたことによって、空き家が解消をしつつ、移住の方が増
えてきたということが書いてあります。

この移住サポートセンターを支えるサポーターが各地区に必要では
ないかと思っています。私の地域でもこのサポートセンターを支える
といえますか、地域の実情というのは日々変わっていきますし、地
域の者でないとわからないところがあります。そういう中で、サポ
ートセンター

を支えるサポーターを各地区でつくり、増えつつある空き家等を少しでも解消し、情報も持つのは大事だと思っています。

行政と町民が協力しなければいけないことばかりですので、サポートセンターを支えるような、民間サポーターをぜひ各地域にも増やしていただきたいと思っています。

次に、自然環境の保全というところでも町民行政が互いに協力し合い美しい景観を守ろうと書いてあります。その通りですし、美しい景観を守っていくには人の手を加えないといけません。

だんだん人口が減る中で、こうしたことが難しくなるのではないかなと思います。例えば、佐見には佐見の道と川を守る会といった組織があって、皆さん会費を払ってボランティア活動をしているということで、ボランティアの見本だと思います。こうした組織は各地区にあるかと思いますが、こうした人の手が加えられるような、みんなが協力しあってこの美しい景観を残して守っていくという認識は大事なことでありますが、やはりそういったことをさらにサポートしていけるような総合計画にしていきたいと思っています。そしてこの自然豊かな白川町、いろんなブランドにもその全てに繋がっていきますので、町民と行政が互いに協力し合っていくということが移住・交流サポートセンターの話にも繋がっていくと思います。

企画課長 サポートセンターができて5年目になりますが、移住を進める中で各地区でのサポートの必要性を感じています。審議会の委員になっていただいています塩月さんは、サポートセンターに所属して集落支援員ということで、黒川地区を中心に活動していただいています。その成果が徐々に現れていると思っていますし、他の地区にもいることで、空き家の対策でありそういったものが進んでいくと考えています。

移住コーディネーターや移住支援団体の育成を入れさせていただいたのはそういった思いもあります。

建設環境課長 自然環境の保全とありますが、ここでいう自然環境の中には森林や水源に関わるものから、農地とか人の手を入れて守っていくというような分野の環境まであり、日本型直接支援事業の多面的支払交付金を活用して云々とありますが、こうした事業を地域の活力を駆使しながら、自然環境の保全活動を継続していくことが課題であるとなっていますので、農林の面でも生活環境の面でも、環境を守るサポーターを維持、支援していく施策は、当然計画の中に含まれているものと思っています。

佐伯委員 情報基盤先端技術の利活用となっていますが、あまりにも触れているところが狭いというか、今の先端技術というと、顔認証と同時に住民の情報

と紐付けできることなどがあげられます。例えばコロナ関係でも、カメラがあつて体温がわかる。そこに顔認証もついていて、体温とその住民情報まで出てくるようなものもあり、熱がある方、ない方で分けたり、避難所で活用されたりといった技術がある中で、情報基盤、先端技術で触れているのが、地域の魅力を発見発信とか、広報紙、めざまししらかわとか、それをさらに良くしていくと書いてありますが、今後の I O T, I C T を考えると、もっと広いことを書いてもいいと思います。公聴活動の充実と書いてありますが、これから広聴活動自体が難しいので、それを先端技術を使ってやる、マイナンバーの時代ですので、そういったところを使って住民情報を有効に活用していくようなことを書いた方が良くかと思ひます。情報発信についても、割と具体的に書いてあるのはいいと思ひますが、あまり未来を感じられないように思ひます。

また、あらゆる分野で I C T の有効活用が書いてあり、ドローンの利活用のため各種事業を展開と書いてありますが、I C T の利活用の中でドローンを活用する形がいいと思ひます

企 画 課 長 情報基盤・先端技術の利活用の文書については再考したいと思ひます。

もう少し先の未来を見据えた内容にしたいと考えております。

会 長 ドローンの利活用の表現は修正いただくということと、内容面については、実は非常に厳しいご指摘で情報基盤・先端技術の利活用のこれが先端技術って言えるのかというふう話になるので、その表現で先端技術という言葉を残すのかどうかというところを含めておそらく内容はそんなに変わらないとするならば、どちらかと言うと I C T の活用というところにとどまっている部分はあるので、その整合性を少しご検討いただけたらと思ひます。

企 画 係 長 マイナンバーの活用といった行政サービスに関連する部分に関しては、生活環境の充実の中の行政サービスの充実のところでも活用といった部分を触れさせていただきますので併せてご覧いただければと思ひます。

会 長 次に向けて今日は成果指標が出てないですが、どのタイミングでどう作られていくのでしょうか。

企 画 係 長 本来であれば本日の審議会でも成果指標まで入れた形でお示しできるようにと思ひましたが基本政策レベルで成果指標を設定するというので、先ほど農林業のところでも話がありましたように、かなり幅広いレベルで一つないし二つ目標とする指標を設定することで、現在各課でどういった指標がいいかということ協定している段階です。

一度、策定会議の場で検討はしましたが、もう一度見直しが必要という

ことで、ちょうど予算編成の時期でもありまして予算の編成と合わせて、成果指標の設定をしている段階です。

会 長 一度取りまとめていただいて、委員の皆さんにはそれお送りいただき、ご意見を頂戴した上でパブリックコメントに進んでいただいた方がいいと思います。成果指標の項目は議論余地と幅があると思うので一度お示しいただいた方がいいと思います。

企画係長 資料はまとめさせていただいた段階で委員の皆様へ、お知らせをさせていただきます。

また、総合戦略の策定に関しましても一体的に考えるということで、総合計画の方が幅広い形になりますので、その中から総合戦略の方にも使用できるものがあるかと思っておりますのでなるべく別で設定するというよりも、今回考える指標の中から戦略に位置づけをするという考え方であります。

加藤委員 政策ですので硬くなるのはしょうがないと思いますが、なんとなくワクワク感が出てこない、感じられない。文章を読んでいると、例えば楽しいとか、好きだとか、白川町を愛しているとか、そういうワクワク感をもう少し文章に加えたらどうかと思います。

企画係長 意見として、検討できる項目があれば加えたいと思います。

小栗委員 役場本庁を安全な立地へと移転し有事の際でも通常と変わらない業務を遂行しつつ、復興のための司令塔となる新庁舎の建設に着手しますと書いてありますが、今あるところが安全ではないということで、住んでいる人たちの気持ちを考えていただくと、少し表現を変えていただくといいと思います。

また、地震への備えだけでなく、今年発生したバックウォーターに関しても入れていただきたいと思っております。私自身が床上浸水被害を経験しましたが、それぞれ手厚いご支援をいただき、今やっと軌道に乗ってききましたが、これに対して河岐の地区の人たちはどういう対策をしてくれるのだろうかということを心待ちにしておりますので、その辺も一つよろしく願いたいと思っております。

それから、教育環境の充実というところで小中学校の再編等教育施設の適正な管理とありますが、学校再編に関し統合という言葉が一言も出てきていないですが、この再編という言葉を使うということは、義務教育学校も含めての再編ということであえて統合と入れないのかということを知りたいと思っております。

総務課長 役場本庁舎の記述に関してははでおっしゃる通りですので、もう少し配慮

した内容に改めたいと思います。またバックウォーターの件をお話いただきましたが、ちょうど本日、県の担当者と町長、副町長、建設環境課長を交えて議論したところでございますけども、まだ具体的な表記ができるところまでの段階に至っておりません。そういう動きがあるということをご理解をいただければと思います。

教育課長 教育の方ですが、再編に係る答申と教育委員会の方針に基づき、地域の合意を進めながら再編を行っていくということになりますので答申にありましたような統合や義務教育学校なども含めて進めていくというような書きぶりしております。

【その他】

会 長 その他について説明や意見がないか求めた。
企画係長 今後の進め方について資料により説明した。
副会長 閉会にあたりあいさつした。
会 長 閉会を宣した。

(午後3時15分)